

インドの幼児教育カリキュラムにおける学習内容 一週ごとの変化に着目して一

京都大学大学院 小島 美月

はじめに

特に 2000 年代に入ってから、幼児教育への注目が高まっている¹。インド共和国（以下、インド）においても、2000 年代以降、憲法改正や法律の制定によって、幼児教育に関する規定や幼児教育の位置づけに変化がみられる²。特に、2019 年に公表された国家教育政策の草案において、無償義務の幼児教育を保障することの必要性が示された³ように、幼児教育を重要とする認識が高まっているといえる。本稿では、こうした状況にあるインドに着目し、2024 年に制定された幼児教育の国家カリキュラム⁴（以下、国家カリキュラム）を分析することを通して、インドにおける幼児教育のカリキュラムの特徴について考察することを目的とする。なお、本稿の分析対象は、3 歳から 6 歳向けの幼児教育の国家カリキュラムである。

同国家カリキュラムは、アンガンワディと称する幼児教育機関において実施されている幼児教育の質を向上させることを目的として、女性子ども開発省によって定められたものである。アンガンワディでは、インドの少数民族や低開発地域の子どもといった社会的弱者層を対象に、健康診断や予防接種、栄養サプリメントの支給、読み聞かせや数の数え方、ゲーム等の遊びを中心とした 0 歳から 6 歳向けの就学前教育が行われている⁵。アンガンワディにおいては、訓練を受けたアンガンワディ・ワーカー（以下、ワーカー）1 名と補助員 1 名が配置されているが、ワーカーの訓練期間が 2 週間と短く、サービスの質に影響を及ぼしていることが指摘されている⁶。同国家カリキュラムは、こうした問題が指摘されているワーカーに対して、インドおよび国際的な幼児教育研究に基づく規準を提供することが目的とされている⁷。同国家カリキュラムでは、週ごとに目標、アンガンワディにおける活動内容、家庭学習の内容等が具体的に定められている⁸。そこで本稿では、同国家カリキュラムの概要を述べたうえで、特にアンガンワディでの活動内容の週ごとの変化に着目して分析する。

1. 国家カリキュラムの概要

本節では、国家カリキュラムの概要を述べる⁹。国家カリキュラムでは、アンガンワディにおける 1 年間の活動について、導入の期間、活動的な遊びに基づく学習の期間（以下、学習の期間）、振り返りの期間の 3 種類の期間に分けて活動を行うことが示されている。具体的には、1 年間の最初の 4 週間が導入の期間、続く 18 週間の学習の期間とその学習を振り返る 4 週間の振り返りの期間が 1 サイクル（以下、サイクル 1）となっている。その後、2 回目の学習の期間が同様に 18 週間設けられており、その学習を振り返る 4 週間の振り返りの期間（以下、サイクル 2）がある。つまり、1 年間で合計 48 週間の活動が行われる。

導入の期間は、子どもたちが家庭から幼児教育機関へと気持ちよく移行できるようにすることを目的

とする期間である。その後の学習の期間は、アングンワディにおける子どもたちの学習サイクルにおいて、中心となる部分である。また、各日に記載されているすべての活動を行うことで、子どもたちが学習成果を得られるようにするとともに、それ以前の学習を強化するような十分な機会も得られるようにする期間であるとされている。そして、振り返りの期間は、それ以前の週で学習したことを総括し、再強化する期間である。また、ワーカーは、さらなる強化が必要なスキルに焦点を当てて、子どもたちのために特定の活動を企画することができるようにされている。以上のように、アングンワディにおける1年間の活動は、3種類の期間に分けて実施されることとなっている。

アングンワディにおける1日の活動の流れは、次の通りである。まず、最初の25分間あるいは30分間は「始めよう」というタイトルになっており、あいさつや身だしなみチェック、出欠確認等を行う。その後の25分間または30分間は「遊ぼう」というタイトルになっており、様々な道具を使って自由に遊ぶ時間である。これらの時間は、合わせて「あいさつと自由遊び」と示されている。そして、10分間のおやつ時間の後、「学習および遊び」とされる90分間、115分間あるいは120分間の活動の時間が設けられている。その後、30分間の昼食と休憩の時間がある。最後には20分間または30分間の「活動しよう」というタイトルの屋外で遊ぶ時間、「ふり返ろう」というタイトルの10分間あるいは20分間の振り返りの時間が設けられており、合わせて「ふり返って終わる」と示されている。

1日の流れのなかの最初の時間である「あいさつと自由遊び」、おやつ時間、昼食と休憩の時間、最後の時間である「ふり返って終わる」では、既述した三つのいずれの期間においても同様の活動が行われることになっている。一方、「学習および遊び」の時間に実施される活動は、各三つの期間で異なっている。

2. アングンワディにおける活動内容

本節では、①導入の期間、②学習の期間、③振り返りの期間の三つの期間ごとに「学習および遊び」の時間に行われる具体的な活動について、以下に述べる¹⁰。

①導入の期間

導入の期間では、20分間の「思いを巡らせよう」、20分間の「探求しよう」、20分間の「聞いたり、話したりしよう」、30分間の「創作しよう」の合計90分間が「学習および遊び」の時間となっている。まず「思いを巡らせよう」には、両親あるいは保護者が子どもたちに物語を聞かせたり、一緒に歌ったりすることが含まれる。また、「探求しよう」では、ワーカーおよび保護者が学習効果につながるよう、子どもたちにおもちゃ等を提供するとともに、ワーカーは彼らの遊びを見守ったり、学習レベルを記録したりすることになっている。そして、「聞いたり、話したりしよう」には、ワーカーおよび保護者が、子どもたちと積極的に会話し、ワーカーは子どもたちの言語的なスキル等を記録することが含まれている。さらに、「創作しよう」では、ワーカーおよび保護者は、芸術や工作を通して表現する機会を与えるほか、ワーカーは創造性や認知に関するスキルを記録することになっている。

以上をまとめると、導入の期間においては、アングンワディにおける教育にワーカーだけでなく保護者も関わるような指針が示されている。また、ワーカーおよび保護者は、子どもたちと共に活動すること、子どもたちに積極的に関わる必要性が示されており、同期間におけるアングンワディの教育は、ワーカーと保護者の両者が共に積極的に子どもたちと接しながら、活動を行う期間となっている。

②学習の期間

学習の期間では、20分間の「思いを巡らせよう」、30分間の「探求しよう」、20分間の「聞いたり、話したりしよう」、25分間の「創作しよう」、20分間の「鑑賞しよう」の合計115分間が「学習および遊び」の時間となっている。表1には、同期間における活動内容の例として、1週目の活動内容を示している。同期間においては、表1に示している通り、各曜日で五つの活動が行われる。つまり、1週間に25の活動が行われることとなっている。ただし、表1において「音を創造したり、認識したり、区別したりする」が火曜日と金曜日の2度行われることとなっているように、1週間のなかで同一の活動が2度行われる場合もある。

こうした25の活動を行う期間が、サイクル1および2の各サイクルに18週間設けられており、1年間を通して合計32週間の学習の期間が存在する。この32週間のなかで、ある一つの活動は1回または数回実施されることになっている。例えば、表1における月曜日の「家族や友達への態度についての読み聞かせ」は、サイクル2の4週目と8週目にも実施されることとなっている。

表1 学習の期間の1週目における活動内容

タイトル	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
思いを巡らせよう	家族や友達への態度についての読み聞かせ	野菜についてリズムに乗って歌う	環境についての読み聞かせ	友情や協力について読み聞かせ	体の部位についてリズムに乗って歌う
探求しよう	身の回りの動物について認識したり、話したりする	身の回りの色を認識したり、見つけたら、分類したりする	身の回りの形について認識したり、見つけたら、分類したりする	自分のアンガンワディを探検する	身の回りの動物について認識したり、話したりする
聞いたり話したりしよう	自分自身や家族について紹介したり、話したりする	音を創造したり、認識したり、区別したりする	物について認識したり、話したりする	音を認識したり、区別したりして遊ぶ	音を創造したり、認識したり、区別したりする
創作しよう	果物や野菜をスタンプや絵で表現する	自由に絵を描く	砂で自由に遊ぶ	自分の収納箱に飾り付けをする	紙のボールに様々な絵を描く
鑑賞しよう	自分の居場所を確保し、物を適切に分類して、保管する	植物を育てる	様々な色や形の物を見つける	自分自身や家族について紹介したり、話したりする	音を認識したり、区別したり、様々な速さの音を創造する

出典：National Institute of Public Cooperation and Child Development. *Aadharshila National Curriculum for Early Childhood Care and Education 2024 for Children from Three to Six years Weekly Play Based Calendar [4 weeks of initiation, 36 weeks of active learning and 8 weeks of reinforcement]*. 2024. をもとに筆者作成。

また、各タイトルに含まれる具体的な活動とその種類数については、次の通りである。まず「思いを巡らせよう」では、「手洗いについてリズムに乗って歌う」「道の安全についての読み聞かせ」「写真を見ながら、写っているものについて話す」といった31種類の活動が行われる。「探求しよう」には、「数に関する語彙を理解したり、正しい順序で数えたりする」「物を浮かばせたり、沈ませたりと水を使って実験する」「ジグソーパズルで遊ぶ」といった32種類の活動が含まれている。「聞いたり、話したりしよう」では、「文字と音を結びつけて、アルファベットを認識する」「食べ物の種類や味、好み、栄養につ

いて探求する」「インドの多様性を探求し、理解し、尊重する」といった 28 種類の活動が実施される。「創造しよう」には、「粘土を使って、ロールプレイのための様々な道具を作る」「床に絵を描くインドの伝統芸術であるランゴリーを描く」「体の動きのパターンを創造したり、異なる速さのビートでダンスをする」といった 39 種類の活動が含まれている。「鑑賞しよう」では、「身の回りの安全な状況について議論する」「世界の国々や文化について知り、理解する」「自分が感じたことを話したり、分類したり、理解したりする」といった 38 種類の活動が行われる。

このように、学習の期間においては、各活動の時間は 20 分間から 25 分間に分けられており、各週 25 の活動が実施されている。同一週内において、同一の活動が 2 度行われる週もあるが、同機関では毎週、多様な活動を実施するという指針が示されている。

③ 振り返りの期間

振り返りの期間では、60 分間の「楽しもう」、60 分間の「鑑賞しよう」の合計 120 分間が「学習および遊び」の時間となっている。「楽しもう」の 60 分間では、曜日ごとに一つのテーマについて、いくつかの活動が実施されることとなっており、表 2 には、振り返りの期間で扱われるテーマの一覧を示している。例えば、同期間の 1 週目では、月曜日に「自分自身と自分の体」、火曜日に「自分の感覚」、水曜日に「自分の家族」、木曜日に「自分のアングワディ」、金曜日に「自分の安全」というテーマが設定されている。また、テーマごとに具体的な活動内容も示されており、「自分自身と自分の体」の場合、体の部位についてリズムに乗って歌う、服を着ることの必要性、服装の多様性を理解する、自分の選択、好み等の自分自身について理解するという内容が示されている。

表 2 振り返りの期間で扱われるテーマの一覧

サイクル 1	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
1 週目	自分自身と自分の体	自分の感覚	自分の家族	自分のアングワディ	自分の安全
2 週目	自分のコミュニティ	自分の感情	私たちを支えてくれる人々	食べ物や栄養	衛生的な状態
3 週目	動物や鳥	木や植物	環境	空気や水	果物や野菜
4 週目	テクノロジーやツール	リサイクルやリユース	季節	日、週、月	交通手段
サイクル 2					
1 週目	空間、場所、位置	創造や表現	多様性と統合	親切心や共感	本の世界
2 週目	物語やリズム	祭りや文化	インドと世界	国の英雄	スティームの概念
3 週目	身の回りの色	形で楽しむ	音楽や動き	音や音節	数
4 週目	驚くべき頭脳	スティームの概念	自分を発見する	サインやロゴ	比べて、合わせて、完成させる

出典：National Institute of Public Cooperation and Child Development. *Aadharshila National Curriculum for Early Childhood Care and Education 2024 for Children from Three to Six years Weekly Play Based Calendar [4 weeks of initiation, 36 weeks of active learning and 8 weeks of reinforcement]*. 2024.をもとに筆者作成。

「鑑賞しよう」の 60 分間では、いずれの週においても共通して、Poshan Maah や Poshan Pakwadha、

その他の祭事や祝祭に関する準備や活動に使用する時間とするとされている。Poshan Maah と Poshan Pakwadha はいずれも、栄養の重要性に対する意識を高め、健康を促進することを目的としたインドの祭典である¹¹。

3. 考察

本節では、前節で述べた各三つの期間における活動の内容を整理し、その特徴について考察する。まず、最初の4週間に相当する導入の期間では、ワーカーだけでなく保護者もアンガンワディにおける活動に関わるようになっていく。また、活動内容は、4週間で共通する活動が行われることが示されている。その後が続く期間は、サイクル1とサイクル2の二つのサイクルに分けられており、各サイクルのなかに18週間の学習および遊びの期間と4週間の振り返りの期間が設けられている。学習の期間では、各週の各日において、20分から25分間の多様な活動が実施される。一方、振り返りの期間では、1日ごとに一つのテーマが定められており、そのテーマに関連する活動を60分間行うとともに、祭事や祝祭に関する準備や活動の時間が60分間設けられている。

以上を踏まえると、各期間における活動の特徴として、次の3点が挙げられる。第一に、導入の期間では、アンガンワディにおける活動にワーカーだけでなく保護者も関わるようになっていく。これは他の二つの期間の活動にはみられない特徴であるといえる。第二に、学習の期間と振り返りの期間を比較すると、一つの活動時間に違いがみられる。具体的には、学習の期間における活動時間が20分から25分間であるのに対して、振り返りの期間における活動時間が60分間と比較的長くなっている。こうした活動時間の違いは、各期間における活動の特徴の一つであると考えられる。第三に、各週の活動におけるテーマの扱い方が異なっている。学習の期間では、タイトルごとに30種類ほどの活動があり、1週間に25の多様な活動が行われるようになっていく。一方、振り返りの期間では、1日に扱われるテーマは一つのみである。こうしたテーマの扱い方の違いは、各期間における活動の特徴の一つであるといえる。

おわりに

本稿では、幼児教育を重要とする認識の高まりがみられるインドに着目し、同国における幼児教育のカリキュラムの特徴を考察することを目的とした。具体的には、インドの幼児教育機関の一つであるアンガンワディに活動の指針が示されている国家カリキュラムを分析した。

同国家カリキュラムは、アンガンワディにおける1年間の活動について、週ごとにどのように行うかという指針が示されたものである。1年間で合計48週間の活動が行われることとなっているが、4週間の導入の期間と、18週間の学習の期間および4週間の振り返りの期間を合わせたサイクルが2回行われる。これらの週ごとの活動の違い、つまり各期間の活動を分析すると、同国家カリキュラムの特徴として、次の3点が指摘できる。第一に、導入の期間に特有の特徴として、ワーカーだけでなく保護者がアンガンワディにおける活動に関わりながら、子どもたちの活動を促すような取り組みが行われることとなっている。第二に、学習の期間には、各週において、比較的短い時間に分けられた25の様々な活動が行われるという同期間に特有の特徴がある。第三に、振り返りの期間に特有の特徴として、1週間の

各曜日において一つのテーマに焦点があてられ、それに関連する活動が 60 分間という比較的長い時間をかけて行われるという点が挙げられる。

このような特徴は、アンガンワディにおける 1 年間の教育において、子どもたちの成長や学習成果のために、期間ごとにどのような活動を実施する必要があるかということが考慮されていると考えられる。週ごとにアンガンワディにおける活動内容が具体的に示されており、アンガンワディにおいて教育を行うワーカーに対して、毎週の活動をどのように実施するかということを明確に示す指針となっているといえる。

最後に今後の課題を述べる。本稿では、各期間における活動の特徴に焦点を当てて分析したため、同一期間内における各週の活動の特徴については十分な分析をすることができなかった。特に、学習の期間においては、各週で様々な活動が行われているという特徴があるため、それらの各週の特徴についても詳しく分析を行うことで、インドの国家カリキュラムの特徴をさらに明らかにすることを今後の課題としたい。

注

- 1 浜野隆「幼児教育・保育の国際的動向」『比較教育学研究』第 63 号、2021 年、2 頁。
- 2 牛尾直行「近年のインドにおける幼児教育・保育の政策的動向」『比較教育学研究』第 63 号、63-69 頁。
- 3 同上書、68 頁。
- 4 National Institute of Public Cooperation and Child Development. *Aadharshila National Curriculum for Early Childhood Care and Education for Children from Three to Six Years 2024*. 2024.
- 5 杉本均・小原優貴・門松愛「南アジアにおける就学前の保育と教育 (ECCE) プログラムの展開—政府、NGO、民間によるイニシアチブの検討—」『京都大学教育学研究科紀要』第 59 号、2013 年、76 頁。
- 6 同上書、76-77 頁。
- 7 National Institute of Public Cooperation and Child Development. *op. cit.*
- 8 National Institute of Public Cooperation and Child Development. *Aadharshila National Curriculum for Early Childhood Care and Education 2024 for Children from Three to Six years Weekly Play Based Calendar [4 weeks of initiation, 36 weeks of active learning and 8 weeks of reinforcement]*. 2024.
- 9 本節の内容はすべて、National Institute of Public Cooperation and Child Development. *Aadharshila National Curriculum for Early Childhood Care and Education 2024 for Children from Three to Six years Weekly Play Based Calendar [4 weeks of initiation, 36 weeks of active learning and 8 weeks of reinforcement]*. 2024. をもとに記述している。
- 10 本節の内容は、特に断りのない限り、National Institute of Public Cooperation and Child Development. *Aadharshila National Curriculum for Early Childhood Care and Education 2024 for Children from Three to Six years Weekly Play Based Calendar [4 weeks of initiation, 36 weeks of active learning and 8 weeks of reinforcement]*. 2024. をもとに記述している。
- 11 Press Information Bureau, Government of India. ウェブサイト <https://pib.gov.in/PressNoteDetails.aspx?NoteId=153204&ModuleId=3®=3&lang=1> [最終閲覧日：2024 年 11 月 20 日]
Ministry of Women and Child Development, Government of India. ウェブサイト <https://pib.gov.in/PressReleasePage.aspx?PRID=1908478> [最終閲覧日：2024 年 11 月 20 日]

Learning Contents in National Curriculum for Early Childhood Care and Education in India

—Focusing on weekly changes—

Mizuki KOJIMA

In India, the National Curriculum for Early Childhood Care and Education (ECCE) was created in 2024, which provides Anganwadi workers with a guide grounded in Indian and international ECCE research. This paper aims to clarify the learning contents of the National Curriculum for ECCE through its analysis.

The National Curriculum for ECCE shows weekly learning activities. The first 4 weeks of the year are used to conduct activities that can help children transition from home to the Anganwadi Centre comfortably. These weeks, not only Anganwadi workers but also parents are supposed to be involved in the activities at Anganwadi. The following weeks are divided into two cycles. Each cycle includes two activity phases. One is an activity phase called the 'Active Play Bases Learning Plan'. The other is a phase called the 'Recap and Reinforcement Plan'. The former is 18 weeks and the latter is 4 weeks. During the former phase, 25 different activities are carried out each week. Each activity lasts between 20 and 25 minutes. On the other hand, during the latter phase, 5 themes are covered and activities related to those themes are carried out for 60 minutes each week.

Through the analysis, it can be noted that the activities differ for each phase. In other words, it is considered that the activities that need to be carried out at each phase of the year of education at Anganwadi take into account the children's growth and learning outcomes.